厚木ロータリークラブ週報

JAPAN　第2780地区　Atsugi Rotary Club Weekly

会長　山口巖雄
副会長　小林　透
幹事　会田義明
副幹事　常磐重雄
会報・IT　湯澤一孝

こころの中をみつめよう 博愛を広げるために

2011～2012　国際ロータリー会長　カルヤン・バネルジー

例会場　厚木商工会議所5F　大会議室
例会日　毎週火曜日　12：30～
事務所　厚木市栄町1丁目16番15号　厚木商工会議所内

http://www.atsugi-rotary.jp　メールアドレス info@atsugi-rotary.jp　TEL.046-222-5811　FAX.046-222-5821

第2495例会（12月20日）☆司会　壽永純昭 SAA

点鐘　…山口巖雄会長

斉唱　…我らの生業

ゲスト紹介

遠藤郷平様（伊勢原ロータリークラブ）

丸田隆宏様（あつぎ司法書士事務所）

会長報告

◎ ガバナー事務所より

・国際基督教大学東ヶ崎潔記念ダイアログハウス御献金のお願い

・1月のロータリーレート　1ドル＝78円

幹事報告

◎例会変更

＊海老名欅RC

・クリスマス家族親睦例会

日時：12月22日（木）18時30分　点鐘

場所：オークラフロンティアホテル海老名

・休会

2012年1月5日（木）

2012年1月9日（月）

・厚木・海老名5クラブ合同賀詞交歓会

日時：2012年1月12日（木）

→6日（金）18時30分　点鐘

場所：レンブラントホテル厚木

＊座間ＲＣ

・賀詞交歓会

日時：2012年1月11日（水）18時30分　点鐘

場所：ソバ処「やぶ久」

◎週報

1．厚木中ＲＣ

2．座間ＲＣ

スマイル報告

遠藤郷平様（伊勢原 RC）

本日卓話でお世話になります。つたない卓話で申し訳ありませんが宜しくおねがいします。

山口巖雄会長・会田義明幹事

12月13日に開催されました。忘年親睦例会では滝澤委員長を始めとして親睦活動委員の皆様には大変お世話になりました。プロのマジックショーも大変楽しく有意義に過ごすことができました。

壽永純昭君

伊勢原RC遠藤郷平次年度第7グループガバナー補佐、大変ご多忙な年末の最終例会にご講演いただき有り難うございます。来年は大変な年になりそうですね。お互いにガンバリましょう。本日はよろしくお願いします。

今日の例会（2011年1月6日）

厚木・海老名5クラブ合同賀詞交歓会

ホスト：厚木県央RC

次回の例会（2012年1月10日）

「平成23年税制改正と今後の行方」

担当：今　和広君

講師：森本博仁様

（大和証券㈱ウエルスマネジメント部 課長代理）

髙橋　浩君
来年より入会いただける丸田先生、本日はご多忙の中、来会ありがとうございます。末永くお願い申し上げます。

髙橋　浩君
本日はご多忙の中、遠藤郷平社長卓話ありがとうございます。

髙橋　宏君
入会記念日のお祝いありがとうございます。早いもので7年、今後もよろしくお願いします。又、丸田先生、本日はようこそいらっしゃいました。今後とも長いおつきあいお願い致します。

滝澤　勇君
忘年親睦例会には多数の会員・奥様、ご家族の皆様にご出席いただきありがとうございました。お陰様で無事に終えることができました。また当日ご協力いただきました親睦活動委員の皆様、お疲れ様でした。

難波有三君
誕生祝いをありがとうございました。58才になります。仕事をもう少しがんばろうと思います。

西迫　哲君
今年一年大変お世話になりありがとう御座居ました。来年もこりずに御指導の程宜しくお願い致します。良いお年をお迎え下さい。

常磐重雄君
たぶん…入会4年目になりました。今後とも宜しくお願い致します。

会田義明君
本日は結婚記念日のお祝いありがとうございました。

山本淳一君
妻の誕生祝いのきれいなお花をありがとうございました。又楽しい家族親睦会もありがとうございました。

飛鳥井豊君
去る12月10日の妻の誕生日には美しいお花をいただきありがとうございました。

平沼義幸君
所用により早退致します。申し訳ありません。

今日のお花

ゆず（壽永純昭 君）

例会「1. 地区（広報・雑誌）活動について　2. 自然災害（地震・津波・地滑り）について」

担当：髙橋　浩君
講師：遠藤郷平様
（伊勢原ロータリークラブ・株式会社イ・エム・テクノ代表取締役）

厚木ロータリークラブ

第２４９５回　卓　話

株式会社　イ・エム・テクノ

代表取締役　遠藤　郷平　様

担当：高橋　浩

卓話原稿

伊勢原ＲＣ会員　　遠藤郷平

場所　：　厚木ＲＣ例会場（厚木商工会議所）
日時　：　２０１１年１２月２０日（13：00～13：30）
テーマ　：　１.地区「広報・雑誌委員会」活動について
　　２.自然災害（地震・津波・地滑り）について

１.地区「広報・雑誌委員会」活動について

ロータリーと広報の関わり合いについて、お話させていただきます。

従来、日本におきましては、個人の善行は隠匿の美で『隠す』事が美徳と言われておりました。

ロータリーそのものは組織でありますので、地域での奉仕活動をより効果的なものとする為に、地域の方々にロータリー活動を理解頂く共に、組織強化の必須である会員増強の一助と成りうる広報活動を展開する必要が有ります。

ロータリーアンに向けての広報紙として１９５３年１月号を創刊して今日まで内容の充実と共に、７０８号まで発刊されロータリーアンの貴重な情報源と成っている事は皆さん御承知の事と思います。

しかしながら、ロータリー１００年の歴史の中で、漸く、１０年程前からロータリーの広報は全ロータリーの発展と、奉仕活動を効果的に活動するためにロータリーとは何か？、何をしているかについて、直接誰かに知らせ、地域社会にその存在を一層際立たせるように設置することを要請すると求めています。これは、ロータリーの「公共イメージと認知度の向上」を、ＲＩでは求めております。

「２００１年～２００５年」にかけてＤＬＰ、ＣＬＰが導入されました。

「２００７年～２０１０年」ＲＩ理事会にて承認された「国際ロータリー長期計画」の７つの優先項目と各項目のそれぞれの目標から見て、それぞれロータリーに対する認識と公共イメージを高めるという『広報項目』が生まれました。

２０１０年７月１日から、国際ロータリー長期計画が「将来に向けて大きな夢を得よう」と言う、新しく改正された長期計画が有効となりました。

国際ロータリー長期計画委員会で３つの優先項目が発表されました。

- クラブのサポートと強化
- 人道的奉仕の重点化と増加

- 公共イメージと認知度の向上

２０１０年１１月２５日～２７日に、大阪で開かれた「ロータリー研究会」で、国際ロータリー会長が、「公共イメージと認知度の向上については、アメリカではＲＣの認識は、一般の人達はお金持ちのクラブである。白人のクラブである。排他的だ。」という風に思われています。

ロータリーが正しく理解されていないので、アメリカ人は懸念を示しました。

それに対して、公共イメージと認知度の向上に対して目的を５つあげました。

- イメージとブランド認知を調和させる
- 行動を主体とした奉仕を推進する
- 中核となる価値観を推進する
- 職業奉仕を強調する
- クラブにおけるネットワークづくりの機会ならびに
　クラブ独自の主な活動について周知を図るようクラブに奨励する

昨年度の広報委員会はこれを進めると共に各クラブでの広報活動を効果的に推進する事を目的として、「地区広報賞」を設け各クラブの広報活動をガバナー補佐推薦および、クラブ自薦、により応募された中から審査の結果優秀クラブを地区大会に於いて表彰し、各クラブに効果ある広報活動の一助として頂ける事を、熱い思いとして今年度の地区大会で初めて実行致しました。

継続事業として本年度も実施を予定しております。

「クラブ広報賞」は奉仕の内容では無く、如何に地域の依り多くの人達に密着した広報活動を実施し其の結果どのような効果が得られたかが評価対象と成ります。

「クラブＷｅｂ賞」はＷｅｂを利用したクラブ内の情報伝達、クラブ親睦、新会員へのロータリー情報、会員以外へのロータリー活動状況の発信をＷｅｂを効果的に活用されているかを評価します。

今後共、此の趣旨を御理解頂き各クラブに於かれましては、広報活動に尚一層のご協力をお願いします。

２.自然災害（地震・津波・地滑り）について

今年３月１１日の東日本大震災を経験し、次に起こるであろうと予測されている東海地震を前に地震・津波・地滑り等の知識を一人でも多くの方々に理解頂き尊い人命の安心・安全の一助として頂ければ幸いです。

☆地震の大きさには一般的には**震度**と**マグニチュード**で表現されます。

◎**震度**は人が其々の場所（場所が変われば震度も変わる）で感じた揺れの大きさを震度０～震度７までの７段階で表現されます。

震度	状　　況	ガル
0	人体には感じられない。地震計に記録される程度	０～0.8
1	静止している人や、特に注意深い人のみ感じる	0.8～2.5
2	大勢の人が感じる程度、戸障子がわずかに動く	2.5～8
3	家屋が揺れ電灯等の吊り下げものは相当ゆれる。	8～25
4	家屋の揺れは相当激しく花瓶等は倒れ多くの人が戸外に飛び出す。	25～80
5	壁に亀裂が走り、煙突／石垣等が破損する程度。 多くの人が強い恐怖を感じ、行動の支障を感じる。 棚においてある物、食器、本、ＴＶが落ちたり家具が倒れたりする。 耐震性の低い家屋は壁、柱に破損を生じる。 中程度の地震：普通は震度５でも 80～100 ガルが多い。	80～250
6	家屋の倒壊は 30%以下で多くの人は立っている事が出来ない。 固定していない重い家具が殆ど移動、転倒する。 耐震性の低い家屋は倒壊する。	250～400
7	家屋の倒壊は 30%以上で山崩れ／地割れ／断層を生ずる。 耐震性の高い建物でも傾いたり、大きな破壊を受ける。 自分意思では行動出来ないほど揺れる。	400 以上

１ガル＝1cm/sec2（　気象庁）

参考：関東大震災　　震度６　（300～400 ガル）
　　阪神淡路大震災　　震度７　（600～800 ガル）
　　東日本大震災　　震度７　　宮城県栗原市（2933 ガル）

◎**マグニチュード**地震の震源地での規模を表す単位

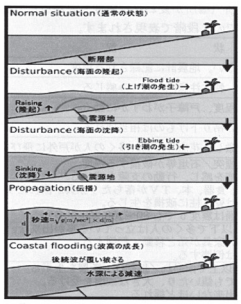
マグニチュードの値が１違うと地震波エネルギーは 32 倍と成る。
M2 は M1 の 32 倍 M3 は M1 の 1024 倍・・・・・・・・

年	地震名	Mw
1960	チリ地震	9.5
1964	アラスカ地震	9.2
1957	アリューシャン地震	9.1
2004	スマトラ島沖地震	9.0
1952	カムチャツカ地震	9.0
2011	東日本大震災	9.0

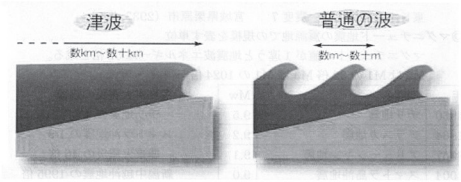
東日本大震災の規模
チリ地震の 1/6
スマトラ沖地震の 1/3
関東大震災の 45 倍
新潟中越沖地震の 1995 倍
神戸淡路大震災の 355 倍
広島原爆の 33 万倍

◎**マグニチュードと震度の関係**は電球の明るさで表現すると。
電球の消費電力＝マグニチュードとした場合一番明るい場所は電球の直下で最大震度となり電球から離れて行くと段々暗く成りますので震度も下がります。
即ち、一つの地震のマグニチュードは固定であるが震度は震源地から離れる程小さくなる。

☆津波は地震に依る地殻の変動で起因す



普通の波と津波の違い



津波の特徴は波長が長いこと、強い力がいつまでもかかり大きな破壊力となる。
普通の波の３ｍと津波の３ｍとでは、破壊力が格段に違う。

★津波・洪水　防災三か条（防災・危機管理アドバイザー山村武彦山村武彦）

１、「グラッときたら、津波警報！津波・洪水逃げるが勝ち！」
　海岸周辺や海岸近くの河川周辺にいたら、津波警報と思って１秒でも早く、１ｍでも高い高台に避難することです。

２、「俗説を信じず、最悪を想定して行動せよ
　「波が引いてから津波が来る」とか「ここは過去津波がきたことがない」などの俗説を信じてはいけないのです。

３、「健常者は車は使わず・遠くより、高く、一度避難したら戻らない」
「津波は高台へ逃げるが勝ち」、高台まで避難できそうもないときは、ビルの４階以上に避難

☆**津波のスピード**

津波が襲う（伝播）スピードは水深によって異なり、水深が深いほど陸に押し寄せるスピードが早い（津波の速度（秒速）＝√９．８×水深（ｍ））。例えば「チリ地震津波」の場合、１９６０年５月２３日午前４時１０分（日本時間）日本からすると地球の裏側・南米チリ沖で地震（Ｍ９．５）が発生。その２２時間３０分後、約１７，５００Ｋｍ離れた日本の三陸沿岸に津波が押し寄せ６１人が死亡し、多くの家屋や船舶が流失しました。太平洋の平均水深は約４０００ｍなので、津波は約７７０Ｋｍ／ｈの速度（ジェット機のスピード）で襲ってきた計算となります。

☆地滑りに関する疑問

山が崩れる前兆として地鳴りなど音がするといわれていますが、なぜ音が出るのでしょうか？これは科学的に確認されているのでしょうか？

山が崩れる際には実際にはかなり前から目には見えないほどゆっくりですが微小な変動が始まっています。その変動が徐々に加速して最終的に動きが見える急速な変動に至ります。そういった微小な変動の段階でも斜面内部のいろいろな場所では、岩石の破砕が生じたり、亀裂を或に小さなすべりが部分的に生じたり、木の根が切れたりすることによって音が発生します。これらの前兆の音は崩れる斜面の規模が大きければかなり前から発生します。

岩石の破壊実験などでも最終的な破砕に至る前に微小な音が数多く発生し、破壊に近づくにつれてその頻度が増大することが実験的にも明らかにされています。 山の斜面から日頃聞き慣れない音がする場合は山崩れの前兆現象の可能性がありますので、周りの人にも呼びかけて直ちに安全な場所に避難することが大切です。

山くずれの直前には変なにおいがすると言われていますが本当ですか？

山崩れの前のにおいがするということは体験者から聞くことは多々あるようです。しかしにおいに関しては科学的に研究された事例はほとんどないと思います。これは実際にどういったにおいだったか、どういった成分であったのかなどをあとから確認することが難しいということがあると思います。

従ってこれはあくまでも憶測ですが、一つには急激に斜面内の地下水が上昇したことによって土の空隙にあった空気が押し出されて来るためとか、あるいは山腹に亀裂が生じたり、岩の割目が開いたりなどして地中の土や岩石が空気に触れてにおいが拡散するのではないかなどと考えられますが、科学的に明確な答えを出せる段階にはありません。いずれにせよ、異様なにおいがする場合にも斜面が崩れても安全な場所に避難することが重要です。

雨によって地すべりが発生するメカニズムはどうなっていますか？

山の斜面にも重力が働いているため常に斜面下方に引き落とそうとする力が働いています。しかし土の内部の摩擦力や岩石の強度がそれを上まわっているために、崩れないで支えられているわけです。ところが、大雨や融雪によって地下水が上昇した場合や、地震動などの外力が加わった際にはそのバランスが崩れて地すべりや山くずれが発生するわけです。

雨による斜面崩れの場合は、斜面内部に浸透した雨水が地下水となって土の間の空隙や岩の割目の間の水圧（これを間隙水圧と呼んでいます）が急速に上昇します。するとあたかも水中で浮力を受けたような状態になって摩擦力が低下するためにすべり始めます。

雨による山崩れの発生は、小規模な崩れでは降雨強度のピーク時にほぼ近く、一方、大規模な崩壊については地下水が最も上昇するのが数時間から 1-2 日後ですので、雨が上がってから崩れる場合もかなり多いようです。

大雨が降ったり、あらかじめ大雨が予想される場合には山間部や斜面が崩れることを想定して避難することが大切だと思います。

「流れ盤では地すべりが発生しやすい」と聞きました。どのような意味ですか？

流れ盤（ながればん）とは、地層と地形が同じ方向に傾斜している斜面を意味します。地すべりは、特に流れ盤斜面で発生しやすい傾向があります。その理由は、地下の地層が滑りやすい面（すべり面）として作用するからです。

流れ盤斜面のイメージとして、横に置いて積み重ねてある本を想像してください。この状態で全体をゆっくり傾けていくと、ある時点で本が滑って崩れます。地すべりは斜面が塊となって移動する現象ですが、流れ盤での地すべりはそのようなイメージに似ています。

これとは逆に、地層と地形が逆方向に傾斜している斜面を受け盤（うけばん）と言います。受け盤斜面では、流れ盤の地下にあるような滑りやすい地層面（すべり面）が存在しないので、地すべりは発生しにくくなります。そのため、地すべりよりも崖がボロボロと崩れていくような小規模な崩壊が多く観察されます。

考文献　JST　科学技術振興機構

出席報告　〈会員 38 名、出席対象 34 名〉

12 月 6 日例会　　確定出席率 94.12%	12 月 20 日例会　　出席 31 名　欠席 3 名　出席率 91.18%
	＜欠席＞ 金沢文明君・黒柳告芳君・西迫一郎君